

# 国分寺市の基幹相談支援センターとともに



## 国分寺市福祉部障害福祉課 相談支援係長 小林 亜紀



今年度も障害福祉課は基幹相談支援センターの皆様の柔軟な提案力やフットワークの軽さ、そして何より国分寺市の福祉をよりよくしていこうという熱意とともに、さまざまな取り組みを進めてまいりました。

障害福祉サービスから高齢福祉サービスへの引継ぎの在り方について、障害福祉課、基幹相談支援センター、高齢福祉課、地域包括支援センターの四者で検討を重ねていることもその一つです。利用する制度が変わっても引き続き安心して暮らしていただけるよう、60歳を迎えられた頃よりその方の生活の様子を知り、ご本人、ご家族、支援者で共有していくこと、また、高齢福祉サービスの御利用を開始された後のご様子を把握していくこと、などを話し合っています。基幹相談支援センターの皆様が昨年度より市内各地域包括支援センターを回り、障害分野と高齢分野にまたがる地域課題について話す機会を持つことで「顔のみえる関係」を構築していただいていることが、この連携の礎になっていると感じています。

また、次期障害福祉計画においては、希望するすべての市民が計画相談を利用できること、を目標に掲げていますが、この大きな課題にむかって複数の相談支援事業所が協働して相談支援体制を担うしくみ作りがすでにスタートしています。これも日頃よりの市内各相談支援事業所から基幹相談支援センターへの信頼の厚さが土台になっていると思っています。

障害のある方が国分寺市で暮らすことができよかったです、とっていただけるよう、引き続きさまざまなことに取り組んでいけたらと考えています。何より、共に同じ目標に向けて協働することができ心よりうれしく思っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 国分寺市障害者基幹相談支援センター センター長 銀川 紀子

市内の相談支援事業所は、新規受付が限界に達しており、加えて2事業所の廃業、市直営の相談支援事業所（障害児）の民間委託が決定し、新規受入れ中止による影響で、年間150名のセルフプランが増加する試算が出ました。この問題を解決するには、相談支援事業所と相談支援専門員の増加を図るしかありません。

しかし、どの相談支援事業所も赤字で運営されており、相談支援専門員を増やす余力のある事業所はありませんでした。本当に解決できないのか、黒字運営している事業所はないのか調べたところ、都内に2事業所のみ、黒字運営されている事業所がありました。それが、社会福祉法人ソラティオ「ソラティオ23」という相談支援事業所でした。これまで計画相談は、基本報酬が低すぎると言われて来ましたが、報酬改定が進み、さまざまな加算もできました。「それでも赤字は改善しないのか？」という疑問を打ち砕くお話に、情報を取ることせず諦めていた姿勢を反省させられました。また、事業所単独で黒字化は難しい小さな事業所は、どうするのかという疑問にも、協働型機能強化という道があることもわかりました。埼玉県宮代町・杉戸町で「社会福祉法人じりつ 埼玉葛北障がい者生活支援センター ぶんだむ」「社会福祉法人宮代町社会福祉協議会 相談支援事業所ひまわり」「社会福祉法人杉風会 特定相談支援事業所 庄内」「MUT株式会社 相談 ROAD」の4事業所が「まるっと123」というチームを組んで連携し機能強化を取り、黒字化に向けて進んでいることがわかりました。いつの時代も困難に立ち向かい、先に進んでいる先輩がおり、自らが探し求めれば、必ず道は拓ける。今の私たちに一番必要な情報を教えていただき感謝いたします。そして、国分寺市も令和8年度に向けて全ての障害福祉サービスを必要とするみなさんに、相談支援専門員が寄り添える体制を障害福祉課と足並み揃えて進んで行きたいと思えます。

